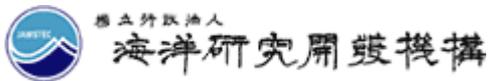


プレスリリース



2013年 7月 23日
独立行政法人海洋研究開発機構

海洋工学センター第2回技術報告会 「海を見る・調べる・探る 海洋調査・観測技術の最前線」開催について

独立行政法人海洋研究開発機構（以下「JAMSTEC」、理事長 平 朝彦）は、海洋工学センター第2回技術報告会「海を見る・調べる・探る 海洋調査・観測技術の最前線」を開催いたします。

海洋工学センターでは、JAMSTECで行っている調査・研究の推進を目的として、さまざまな分野での最先端技術の開発とともに、調査・観測を支える研究船・探査機・観測機器などの運用・管理や機能向上などに取り組んでいます。

本報告会では、最先端の研究を行う上で重要な水中音響探査やAUVなどの技術について、最前線で活躍する技術者や船舶・探査機の運用担当者が分かりやすく紹介します。

また、生命の限界に迫る「しんかい6500」世界周航研究航海「QUELLE（クヴェレ）2013」の乗船研究者や運航担当者による座談会を行い、海外での「しんかい6500」潜航やライブ中継などについて紹介します。

記

1. 開催日時 : 平成25年9月4日（水）13：15～17：30（12:30開場）
2. 開催場所 : 一橋大学 一橋講堂
（住所：〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 [別添1](#)参照）
3. 参 加 : 入場無料・事前登録制（先着500名）

（一般の方）

以下のURLより登録願います。

<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/topics/20130904/>（7月25日にサイト開設）

来場の際は、登録後に自動配信される受付完了のメールを印刷したものを
持参ください。

登録〆切は8月29日（木）。なお、定員になり次第、登録を締め切らせていただきます。

（報道関係の方）

報道関係の方については、会場スペースの関係上、事前に参加者数、テレビ

カメラの有無等について、お知らせください。なお、社名の分かる腕章を忘
れずに持参してください

4. プログラム : [別紙](#)参照

5. 主催 : 独立行政法人海洋研究開発機構

別添1



【アクセス】

都営三田線「神保町」駅A8出口から徒歩3分

東西線「竹橋」駅1b出口から徒歩4分

別紙

プログラム :

発表者 :

- ・磯崎 芳男 海洋工学センター センター長
- ・南部 喜信 運航管理部 探査機運用グループ 技術副主幹
- ・福田 達也 海洋技術開発部 長期観測技術グループ 技術主任
- ・山本 富士夫 運航管理部 探査機運用グループ サブリーダー
- ・大田 豊 海洋技術開発部 探査機技術グループ 技術主事

座談会 :

- ・北里 洋 海洋・極限環境生物圏領域 領域長
- ・川口 慎介 海洋・極限環境生物圏領域 深海・地殻内生物圏研究プログラム 研究員
- ・吉澤 理 事業推進部 広報課

時間	内容
13:15~13:20	開会挨拶：堀田 平（JAMSTEC理事）
13:20~13:40	「海洋工学センターが目指すもの」 磯崎 芳男（海洋工学センター センター長）
13:40~14:20	「海底地震を引き起こす海底下地殻変動を探る技術」 南部 喜信（運航管理部 探査機運用グループ 技術副主幹）
14:20~15:00	「変動する地球環境を海から捉える技術」 福田 達也（海洋技術開発部 長期観測技術グループ 技術主任）
15:00~15:20	休憩（20分間）
15:20~16:00	「海底鉱物資源を探る海底面の可視化技術」 山本 富士夫（運航管理部 探査機運用グループ サブリーダー）
16:00~16:40	「AUVによる海底エネルギー資源探査技術」 大田 豊（海洋技術開発部 探査機技術グループ 技術主事）
16:40~17:25	座談会 生命の限界に迫る「しんかい6500」世界周航研究航海「QUELLE2013」速報 QUELLE2013の航海の概要及びこれまでの航海のトピックスを中心に、会場から積極的に意見を求めディスカッションを行う。 司会・進行：吉澤 理（事業推進部 広報課） 出演：北里 洋、川口 慎介（海洋・極限環境生物圏領域）など（予定）
17:25~17:30	閉会挨拶：磯崎 芳男（海洋工学センター センター長）

お問い合わせ先:

独立行政法人海洋研究開発機構

（本報告会について）

海洋工学センター 企画調整グループ 藤森 英俊

（報道担当）

経営企画部 報道室長 菊地 一成